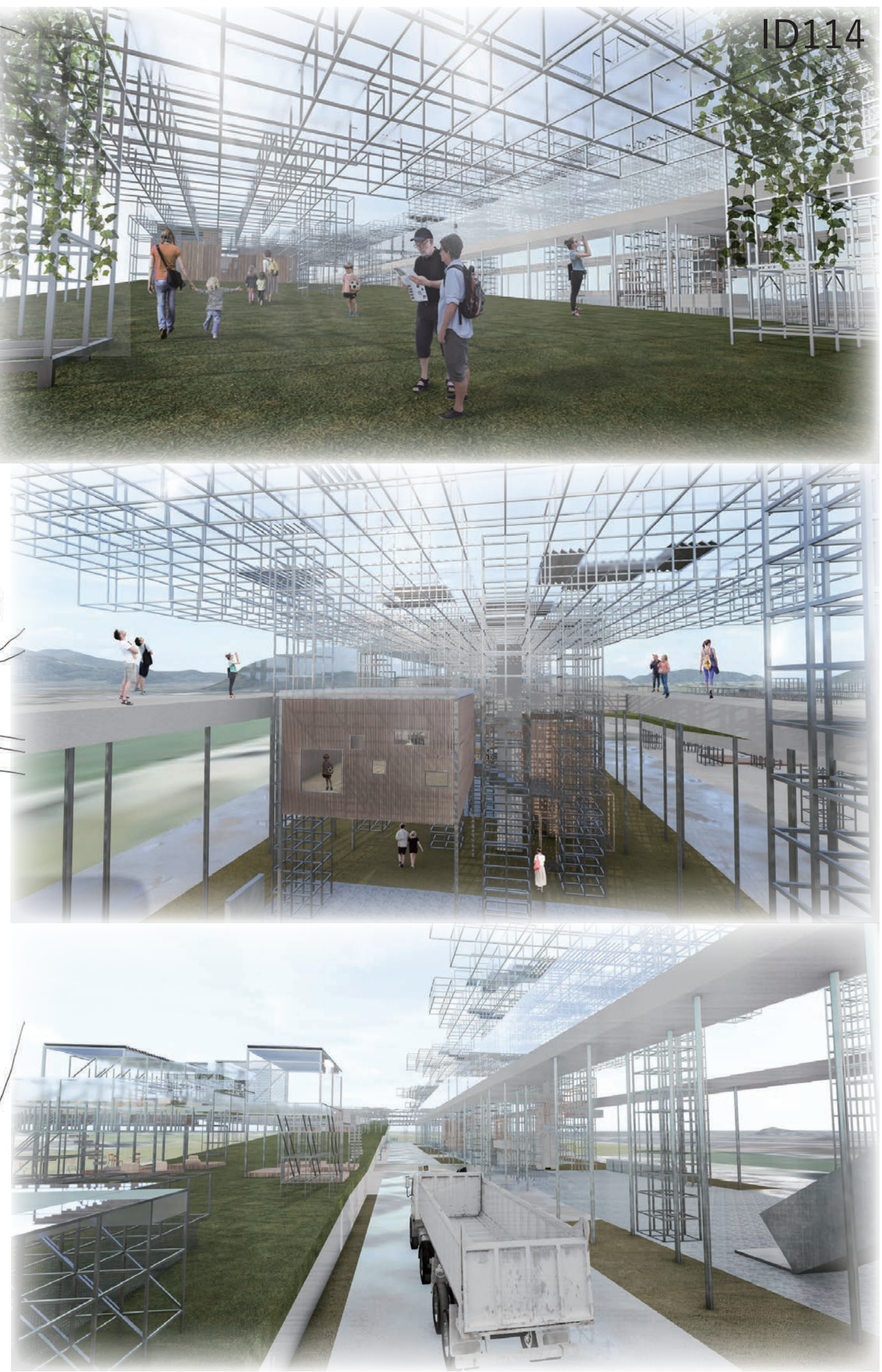
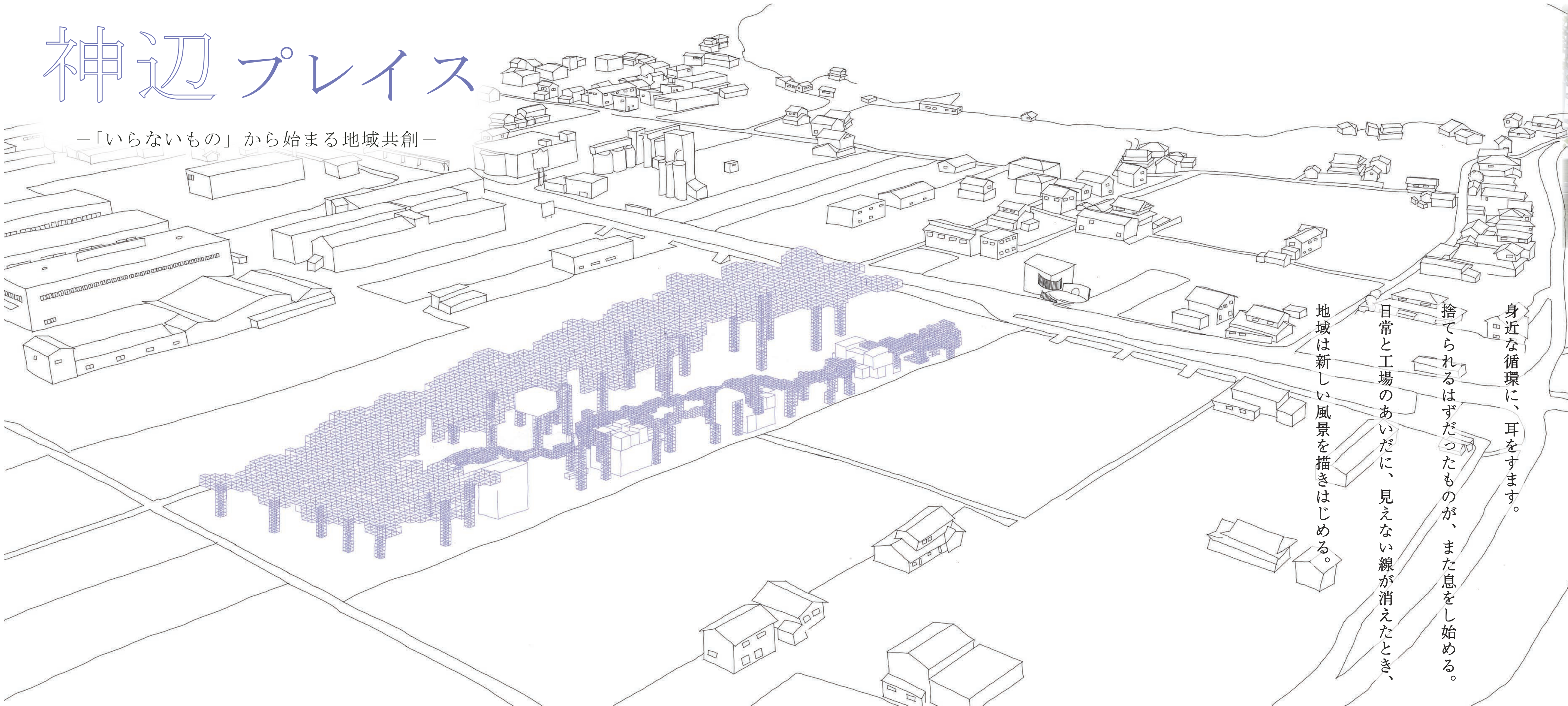


神辺プレイス

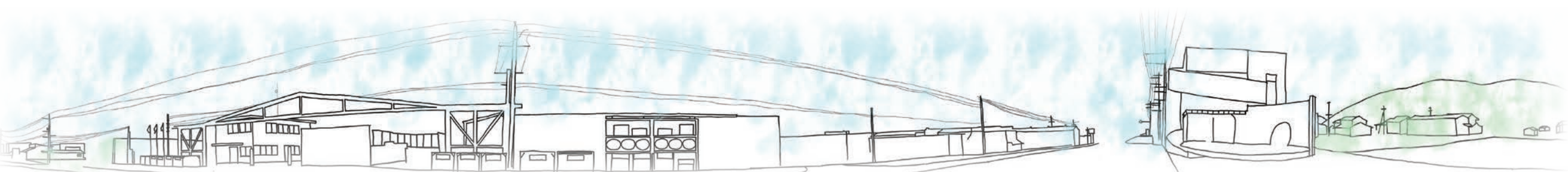
—「いらないもの」から始まる地域共創—



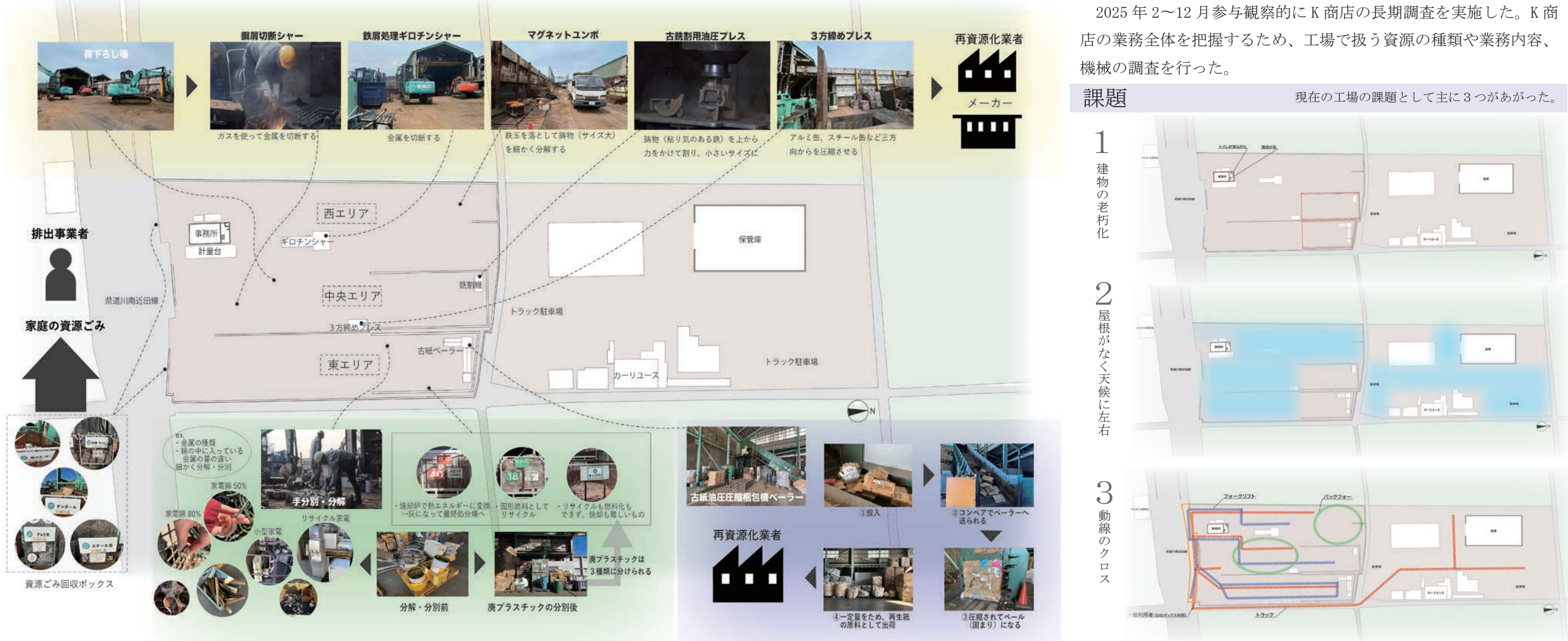
01 背景と目的

持続可能性が求められる現代社会において、建築には“循環”を前提とした視点が必要である。地域で生じる“いらないもの”を資源として循環させ、産業廃棄物中間処理施設が地域に関われば、廃棄物は地域で活かされる材料へと変わっていく。その施設が循環する素材でつくられ、地域に開かれていれば、再生の仕組みは日常の中で見える形に共有される。人々がその循環に参加することで地域全体に新しい循環が生まれる。

本計画は、これまで非日常的な場として位置付けられてきた工場空間を、地域の日常空間と緩やかにつなぐ建築の提案をする。産業廃棄物中間処理という行為を隠すのではなく、地域の生活動線や活動と重ね合わせることで、資源循環のプロセスを身近な風景として共有し、「日常の中の循環拠点」へと転換していく。

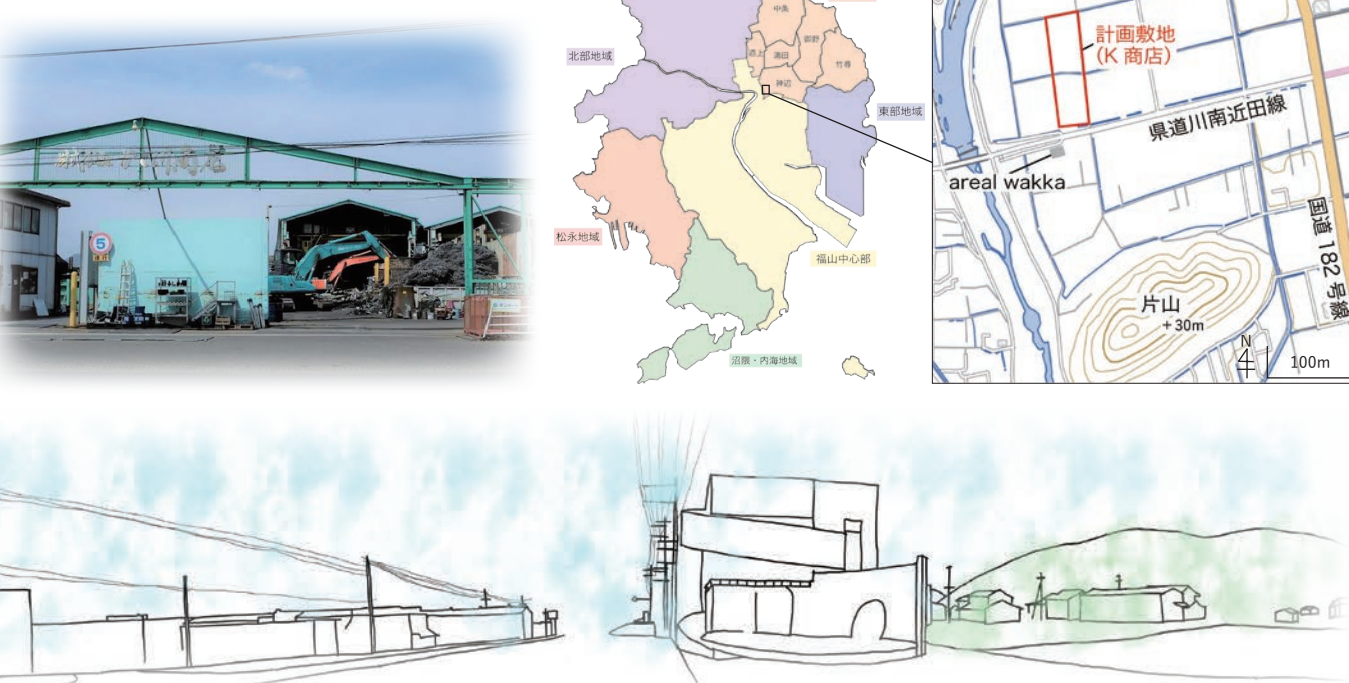


03 K 商店の現地調査と課題 – 参与観察による現状と空間的把握 –



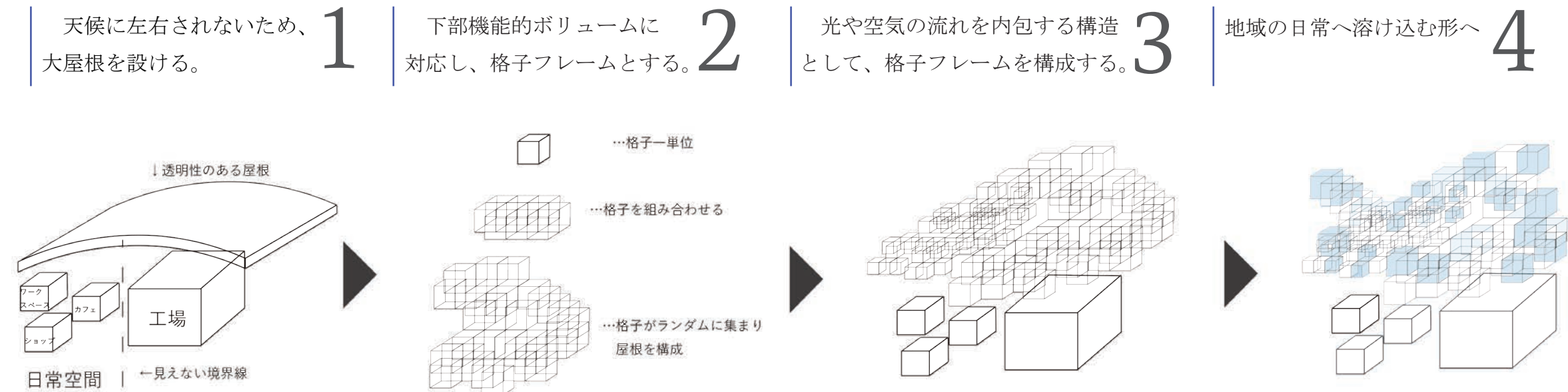
02 計画敷地

敷地：広島県福山市神辺町川南
敷地面積：約 11,500 m²
対象敷地：K 商店の工場部分

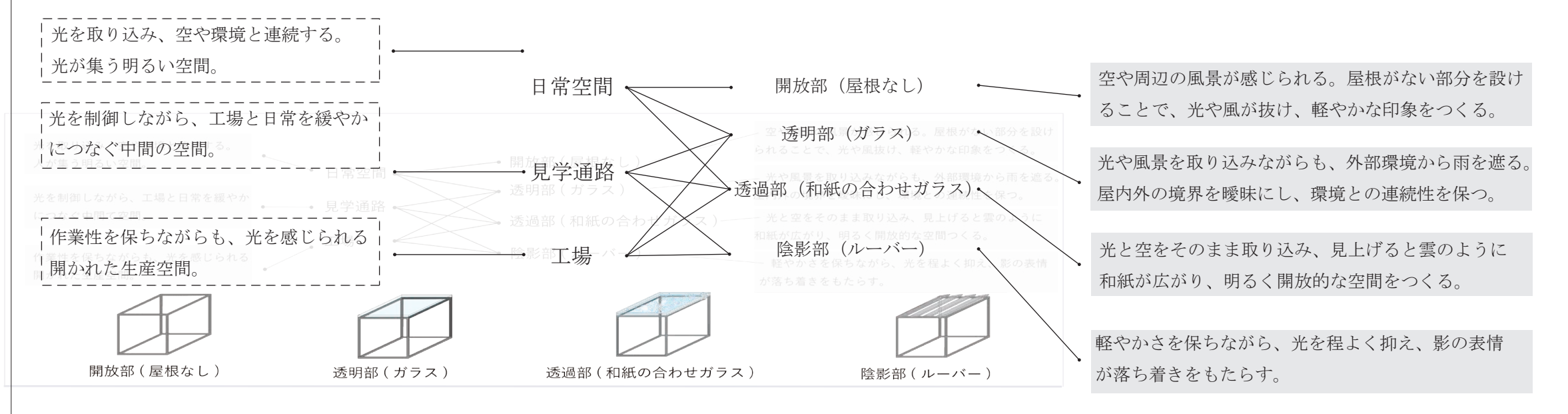


04 三次元格子－空間のふるまいについて－

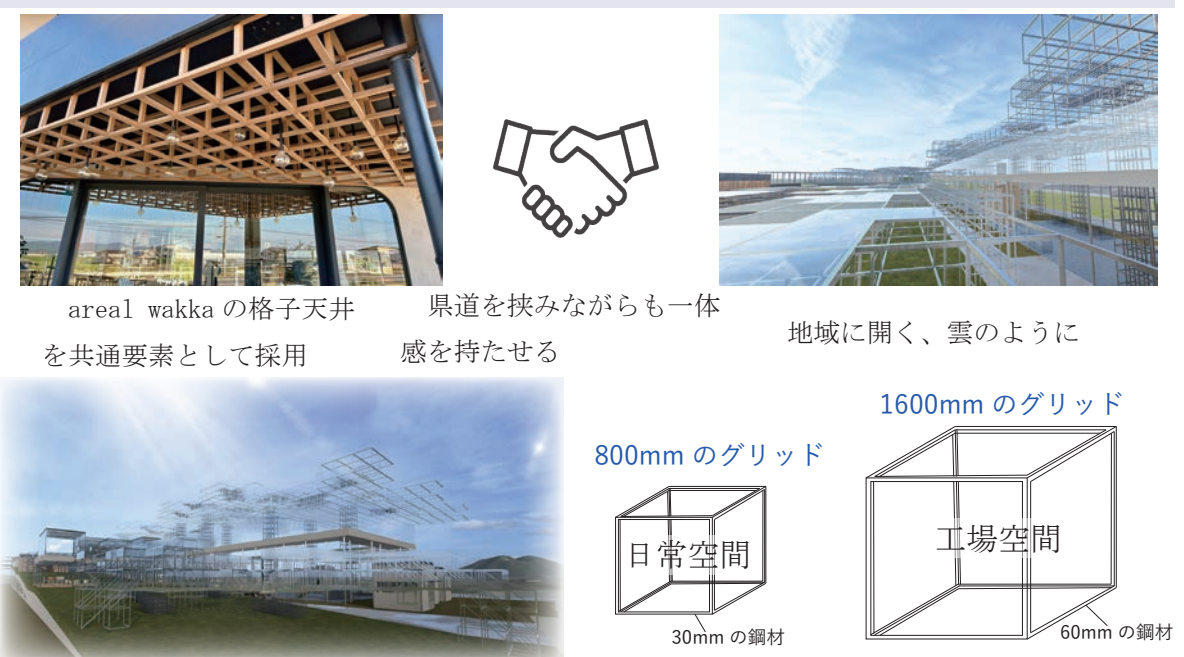
04-1 屋根構成



04-3 屋根素材



04-2 格子



04-4 格子屋根から柱梁へ



素材は、自然素材・再生素材・工場に集まる「いらないもの」を再利用して構成し、すべての素材が再び資源として生まれ変わることを前提に選定している。

